本学会と交流のある海外学会の
定期研究集会派遣報告

中華医学会影像技術学会
(Chinese Society of Imaging Technology: CSIT)
第23次総会・学術大会参加報告書

派遣場所：広西チワン族自治区南寧市
派遣期間：2015年10月22日～25日

初めての海外発表を終えて

派遣員　青木紀顕　金沢大学大学院

はじめに

2015年10月22日から25日までの4日間，中華医学会影像技術学会(Chinese Society of Imaging Technology: CSIT)第23次総会・学術大会に，日本放射線技術学会の派遣会員として参加させていただいたので，その概要を報告する.

1．CSIT2015に関して

CSITでは年に1度，総会・学術大会を開催している．開催都市は年ごとに異なり中国各都市を巡っていく．2015年は，広西チワン族自治区南寧市にある国際会展中心で開催された．セッションは，magnetic resonance imaging(MRI)やcomputed tomography(CT)，X線撮影，マンモグラフィ，digital subtraction angiography(DSA)，核医学，医用工学，医療情報，教育など分野別に分かれており，六～七つの会場で同時に進められていく．ほとんどの発表は中国語で行われるものの，国際フォーラムでは英語による発表が行われているようである．学会期間中には中国や海外からの参加者と情報交換する機会があった．研究に関することのほか，他国の放射線技師の業務について知ることができる大変貴重な機会であった.

2．初めての海外発表

私が参加したインターナショナルセッションは，私達日本からの参加者のほか，中国，香港，イタリア，韓国，マカオ，タイなど30名程度の発表者が参加していた．初めに各国の役員による放射線技師の制度や技術学会についての紹介があった後，研究者による研究報告が行われた．私は，MRIのecho-planer imaging撮像時に位相エンコード方向に生じるケミカルシフトを利用し，水と脂質の拡散強調画像を分離・同時取得する手法についての発表をした．初めての海外学会での発表ということもあり，今まで経験したことのない緊張感を味わうことができた．派遣に応募した当初は，発表の舞台が英語圏ではないことから英語発表への敷居が低いように感じていた．しかし，実際にセッションを終えてみると他国の研究者の流暢な英語に感銘を受け，自身の英語力の未熟さを痛感した．このように初めての海外発表の経験は，私にとって生涯忘れることのない大変貴重な経験となった．今回の経験で大きな刺激を受け，更に語学を上達させたいという思いが高まった．今後は語学力の向上に励むほか，機会があれば英語の研究発表にも積極的に参加したいと考えている.

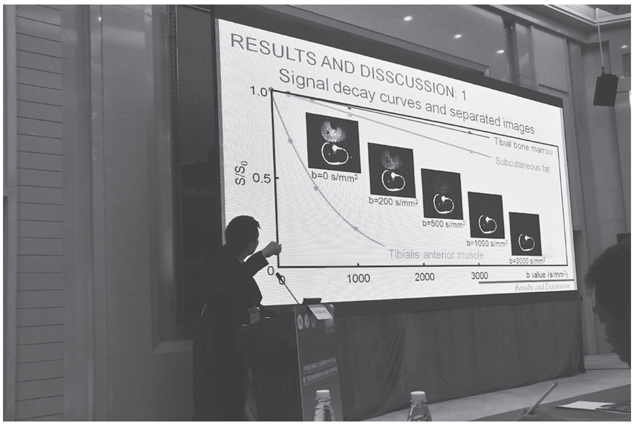

Photo　発表時の様子

謝　辞

最後に，CSIT2015への参加にあたり派遣会員として助成していただき，このような機会を与えてくださいました小倉明夫代表理事ならびに国際戦略委員の皆様，

学会会員の皆様に心より御礼申し上げます．また派遣にご同行いただきました錦　成郎副代表理事，宮地利明理事に深く感謝申し上げます．

中華医学会影像技術学会（CSIT）第 23 次総会・学術大会に参加して

派遣員　丹羽慶彰　金沢大学大学院

1．CSIT2015 の概要と印象

平成 27 年 10 月 22 日から 25 日までの 4 日間，中国広西チワン族自治区南寧市で第 23 次中華医学会影像技術学会（CSIT）が開催された．このたび日本放射線技術学会の「本学会と交流のある学術団体が開催する定期国際研究集会への派遣会員」として参加させていただき，国際セッション“International Imaging Technology Disciplinary Construction Academic Forum”において研究発表を行ったので，ここに報告する．

CSIT は，年に 1 度開催される中国全体の定期総会学術大会である．セッションに関しては，国際セッション以外はすべて中国語で行われる学会であった．

また，さまざまな場面で大会主催者と各国からの参加者との間で挨拶を交わす光景が何度も見受けられた．私も，ボランティアとして参加していた地元の広西医科大学の学生らと交流しさまざまな中国の文化やシステムを知ることができた．単なる研究発表の場としてだけではなく，国際交流の輪を広げることができて嬉しく感じた．

Photo　受賞式後の様子

2．研究発表に関して

私にとって今回の CSIT は初めての国際学会の参加となり，国内外合わせても学会での口述発表は初めての経験であった．発表内容は，エコー時間延長に伴う信号減衰に着目し，第 2 エコーを最長に設定したダブルエコーを使用することで，1 回の撮像で信号画像と雑音画像の取得が可能になり，パラレルイメージングを使用した生体画像においても，実用的で簡便かつ正確な信号雑音比の測定方法の開発・評価を行ったというものである．何度も発表練習したことから，初めてなりに堂々と発表を行うことができたと思う．そして，本研究は Excellent Paper Award を受賞することができ，大変嬉しく感じた．しかし，発表を最後まで行うことで精一杯となり，聞き手に伝わりやすい発表の仕方や，スライドを送る間合いなど配慮に欠けてしまっていた．一方，同じ国際セッションで発表していたほかの国の若い人は流暢な英語で，発表はとても理解しやすく，質疑応答も堂々と対応していた．今回の経験を生かし，今後も国際学会での発表にチャレンジしていきたい．

謝　辞

最後に，今回の CSIT2015 にあたり，国際研究集会派遣会員として助成いただきました小倉明夫代表理事ならびに本学会関係者各位に厚く御礼申し上げます．また，本研究を遂行するにあたり，懇切なるご指導とご鞭撻を賜りました金沢大学医薬保健研究域保健学系・宮地利明教授，大野直樹助教に心から感謝申し上げます．

アジア圏での英語口述発表

派遣員　寺園　真　金沢大学大学院

はじめに

中華医学会影像技術学会（CSIT）は，中国における診療放射線技師の学術団体，すなわち日本における日本放射線技術学会と同等の役割を果たしている．毎年，中国全土の都市の持ち回りで開催されており，本年度は 2015 年 10 月 22 日から 25 日までの 4 日間，中国・広西チワン族自治区南寧市にて，第 23 次総会・学術大会が開催された．

私は，大会2日目のインターナショナルセッションにおいて，海外派遣会員として発表の機会をいただいたので報告する．

1．CSIT2015

例年1000人程度の参加があり，各地域の代表者が研究成果を発表しているそうだ．学会の構成は，招待講演，一般研究発表，教育講演，ポスタ展示，機器展示であった．更に，韓国，台湾，タイ，シンガポールなど，交流のある国・地域の発表者が，私のようにインターナショナルセッションに参加していた．

インターナショナルセッションは，大会2日目の14:00～18:00に大会の1室で開催された．DR，MR，CTなどのモダリティの撮像法や画質評価に関する演題14題(中国5題，タイ1題，マカオ1題，イタリア1題，香港1題，日本5題)から構成されていた．

私は，「Evaluation of muscle function of the lower-leg using simultaneous analysis of R_2 and IVIM: 骨格筋における横緩和時間とIVIMの同時収集・解析」と題して発表を行った．

インターナショナルセッションでは，日頃の学会ではあまり足を運ばない研究分野の発表を聞くことができ，非常に有意義であった．しかしながら質疑応答の際，一つも質問を受けることなく終わってしまったことが唯一の心残りである．

2．人生2回目の海外発表

私自身，英語での発表は2回目であった．2度目の発表とあり，あまり緊張せず発表を行うことができた．更にアジア圏での研究発表は，参加者の多くが英語を母国語としないことで，文法や発音のミスを恐れずに堂々と発表できたと思う．今回の参加で，自信と度胸をつけることができ，とてもよい経験になった．

Photo　発表時の様子

謝　辞

最後に，CSITの参加にあたり国際研究集会派遣会員として助成していただいた日本放射線技術学会　小倉明夫代表理事および会員の皆様に深く御礼申し上げます．また，海外派遣にご同行してくださった，錦　成郎副代表理事，宮地利明理事に大変お世話になりました．心より御礼申し上げます．

中華医学会影像技術学会第23次総会・学術大会 参加報告

派遣員　河野千恵　産業医科大学病院

2015年10月22日から25日までの4日間，中国・南寧市にて開催された中華医学会影像技術学会第23次総会・学術大会(CSIT2015)に国際研究集会の派遣会員として参加させていただき，インターナショナルセッションにて発表する機会をいただいたので報告する．

CSITは1年に1度開催される学術大会で，中国の技師や研究者の方々が各地から参加する大会であり，この大会に参加することを楽しみにしている様子が言葉は通じずとも伝わってきた．本学会では，機器展示もあり，現在の中国でどのような医療機器が使用されているのか知ることができ大変興味深く感じた．私が今回発

Photo　発表の様子

表したInternational Imaging Technology Disciplinary Construction Academic Forumでは，発表者が14名で日本からは4名が発表した．今回の発表が，私にとっては初めての海外発表であることに加え，英語での口述発表ということもあり，期待と不安に胸を膨らませての参加となった．私は，「A study of reducing the radiation dose in magnification mammography」というテーマで，拡大乳房撮影での線量低減の検討についての発表を行った．何度も発表練習を繰り返し本番に臨んだが，緊張のため発表中に何度かつまずきながらもなんとか無事に発表を終えることができた．しかし，日本語とは違い上手く表現しきれなかった部分も多く，少し後悔の残る発表となった．

学会期間中，中国，香港やマカオの技師の方々と交流する機会を持ち，情報交換することができ，日本の現状とはまた違った話を聞けたことは，私にとって大変興味深くよい刺激となると同時に，日本にいるだけでは得られない貴重な経験をすることができた．CSITに参加して，このように人とのつながりを得られたことは私にとって大きな財産となった．

今回の発表を終えて，自分の英語の未熟さを痛感するとともに同セッションで発表した演者の方々の英語が堪能で，自分も負けていられないと感じたが，CSITに参加させていただいたことは，私にとって大変貴重な経験となり，今後も国際発表に挑戦していきたいと思うよいきっかけとなった．今後，英語発表を考えている皆様にも，ぜひ挑戦していただきたいと思う．

謝　辞

最後に，CSIT2015にあたり国際研究集会の派遣会員として助成していただきました小倉明夫代表理事，本学会関係者各位，学会会員の皆様，CSIT参加に関しましてご尽力いただきました李　萌先生ならびに現地スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます．また，学会中ご同行いただきました錦　成郎副代表理事ならびに金沢大学　宮地利明教授，CSIT参加に快く送り出していただいた産業医科大学病院放射線部　興梠征典部長，小川正人技師長ならびにスタッフの皆様に心から感謝いたします．